

氏名	姜 乃 榮
所属	都市環境科学研究科 都市環境科学専攻 観光科学域
学位の種類	博士（観光科学）
学位記番号	都市環境博 第 191 号
学位授与の日付	平成 28 年 9 月 30 日
課程・論文の別	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題名	都市農業のコミュニティによる緑ネットワークの構築とその持続性に関する研究 —ソウル市文来屋上菜園を事例として—
論文審査委員	主査 教授 菊地 俊夫 委員 教授 小崎 隆 委員 教授 川原 晋 委員 准教授 沼田 真也

【論文の内容の要旨】

韓国の都市域では、ヒートアイランド現象の緩和や景観の向上、あるいはレクリエーション空間の確保やコミュニティ回復などを目的にして、農的活動に従事する都市住民が多くなっている。特に地域住民の関心は、屋上空間を利用した菜園に集中している。これらの菜園では、都市住民が屋上緑化の手法として小規模な農地区画を利用し、農業体験を行うことによって、コミュニティ形成の可能な都市農業の農空間がつくられていた。しかし、都心においては、農空間を確保することが一般的に困難であった。

そこで、本研究は屋上緑化と都市農業のそれぞれの問題に焦点を当てた。屋上緑化は都心における緑地不足を人工地盤の緑化事業によって解消してきた。しかし、その持続的な管理には多くの課題が生じている。それらの課題の解法として、都市農業のコミュニティが屋上緑化の活動に積極的に取り入れられた。とりわけ、本研究は都市農業における公共性の役割に着目し、都市農業がいかにして屋上緑化の有効な管理手法になったかを明らかにした。同時に、そのような都市農業のコミュニティは日常的なものとして定着し、社会的および空間的なネットワークとして拡張していった。本研究は、それを緑ネットワークとして定義し、その構築の仕組みを明らかにすることを目的とした。

本研究は、都市農業によるコミュニティ形成の成功事例としてソウル市永登浦区の文来屋上菜園を取り上げた。文来屋上菜園では、その構成員が当初の企画段階から議論に参加し、菜園空間の運営や利用に互いの能力を発揮しながら自発的に活動してきた。さらに、構成員は屋上菜園を拠点とし、地域住民とともに文化的なイベントを日常的に多く催してきた。したがって、都市農業は農空間における緑化と耕作活動の枠組みを越えて、芸術家・町工場・地域住民の多様な住民属性が交流する新たな公共空間づくりの場として位置づけ

られるようになった。このような過程のなかで、屋上菜園を介在して構築された都市農業のコミュニティは、日常的なコミュニティに発展した。また、文来屋上菜園の構成員たちは活動の場を他地域や他分野に拡大させるようになった。例えば、ミミズを利用して堆肥づくりを担当した若者は関連企業を起業し、主婦は屋上菜園の作物を用いてコミュニティレストランを開業した。さらに、退職者はブックカフェのオープンと同時に、店舗の屋上に新たな菜園を設けた。加えて、菜園の指導員は多くの地域で屋上菜園づくりを手助けするようになった。このように、屋上菜園の経験から育まれた人材は都市農業活動の輪を広げ、人的な緑のネットワークの構築に貢献するようになった。

最終的に、文来屋上菜園の分析結果に基づいて、私的空間の屋上が、どのようにして公共性を創出していくのかを検証した。本研究は、公共空間の形成に関する性格を検証するため、物理的な性質から近接性、開放性、地域性、快適性の4つの指標を、非物理的な性質から共同体性、主体性、協力性の3つの指標を抽出した。これらの指標を文来屋上菜園の研究に適用し、以下の3つの結論を導き出した。

第1に、屋上緑化の課題であった持続的な管理には、屋上の閉鎖性や近接性、および便益施設の未整備など、公共空間の物理的な性質が大きく関係していた。文来屋上菜園では物理的な指標に関する満足度が低く、これを向上させるための取り組みとして開放性と地域性が複合的に活用された。具体的には、菜園の運営側が地域住民に屋上を24時間開放し、定期的なプログラムやイベントなどの開催によって屋上の閉鎖性を克服し、屋上空間を地域に密着した空間に変えた。つまり、屋上菜園は公共性を満たすことになり、コミュニティの形成に有効に機能するようになった。

第2に、屋上菜園を基盤にして形成されたコミュニティは、屋上の利用だけにとどまらず、広域的な活動に展開し、新たなコミュニティ形成の契機になった。そこでは、物理的な指標の開放性や地域性、非物理的な指標の主体性と協力性が関連するようになり、それらの指標が相互補完し合うことによりコミュニティの拡大が促進されてきた。

第3に、菜園の運営が特定のリーダーに依存しなかったため、構成員は非物理的な指標の協力性と共同体性で性格づけられるようになった。このことは、屋上菜園がコミュニティの内部結束の核となり、その共同体性が日常的なコミュニティ形成の基礎になった。本研究の結果は、コミュニティ形成に不利であった屋上菜園が、都市農業によって公共性を創出し、日常的なコミュニティの形成に貢献したことを示唆している。そこでは、屋上菜園をめぐる物理的な性質と非物理的な性質の組み合わせが作用し、その作用が相乗的に、そして補完的になるにつれて、私的空間は公共空間の性質に変化し、その変化がコミュニティ形成につながった。つまり、都市農業の日常的なコミュニティが拡大し、緑のネットワークの構築の素地がつくられたといえる。かくして、文来屋上菜園は屋上空間と人的ネットワークの結合を通じて緑を拡散し、その持続性を図ってきたと結論づけられる。